基　本　施　策　評　価　シ　ー　ト

基本施策最終評価
B

基本施策通し番号　20

基本施策　公共交通手段の確保

構成施策

施策番号	施　策　名	施策最終評価
施策1	バス運行の充実	C
施策2	JR越美北線の利用促進	B

成果指標

指　標	内　容	平成32年度目標	平成30年度末実績	単位	平成30年度の成果の検証
大野市内ﾊﾞｽ乗客数	大野市内ﾊﾞｽの年間乗客数	36,000	27,824	人	H29と比較し、1,655人の減となった。 まちなか循環バスは大きく減少し、周辺地区の路線は微増となっているが、前年が稀にみる大雪であった影響が大きいと考える。なお、H28と比較するとほぼどの路線も減少となっており、人口減少に加えて公共交通離れの現れであると考える。
広域路線ﾊﾞｽ乗客数	広域路線ﾊﾞｽの年間乗客数	285,000	243,595	人	H29と比較し、19,026人の減となった。 広域路線バスは、H29.10～H30.9の集計であり、H30.2の大雪による学校の休校や買い物など外出機会の減少が大きく反映しているものと考える。
越美北線の乗客数	越美北線の年間乗客数	347,000	340,485	人	H29と比較し、845人の増となった。 大野市内の駅では1,828人の増となっているものの、越前花堂を除く福井市内の駅では2,311人の減少となっており、福井市内の沿線利用者の減少が顕著であると考える。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現　状	・高齢者や学生などの移動制約者の日常生活や観光客の移動手段として、公共交通は必要不可欠であり、現在「越前おおの地域公共交通総合連携計画」に基づき、広域バスの運行支援やJR越美北線の利用促進、市営バスやまちなか循環バス、乗合タクシーを運行している。
課　題	・市民ニーズに応じて効率的に運行し、市民の豊かな暮らしを支える持続可能な公共交通を実現する。 ・JR越美北線の重要性、機能性、役割について「乗って残す」市民の意識の醸成、北陸新幹線の敦賀延伸が進められる中、鉄道をテーマとした魅力ある観光事業の展開を図る。

社会情勢・市民ニーズの変化

・少子化の進行に伴い、通学生徒の越美北線定期利用者や市内路線バスの通学利用者が減少している。
・一方で高齢化が進行している中で運転免許自主返納者が増加しており、地域で暮らし続けるために公共交通の確保が必要となっているほか、停留所まで移動することが難しいという高齢者の声もある。

現在の「現状」と「課題」

現　状	・民間では採算が合わず維持することが難しい現状である公共交通に行政が関与し、高齢者や学生などの移動制約者を中心とした日常生活の移動手段を確保している。 ・JR越美北線についても、観光利用券「食べ歩き見て歩きマップ」の活用など、利用促進施策に取り組んでいる。
課　題	・少子化の進行に伴い、通学生徒の公共交通利用者が減少している。 ・車を運転することができない高齢者（運転免許自主返納者を含む）に対応した、持続可能な公共交通を実現する必要がある。 （参考）運転免許自主返納認定者数【累計】 H24：34人、H25：61人、H26：87人、H27：149人、H28：215人、H29：296人、H30：378人

基本施策の「成果」

成　果	・大野市内バス等の全体の乗客数は昨年度と比べ減少（1,655人の減）であり、市内バス等のうちまちなか循環バスについても減少（2,272人の減）であったが、これは冬季の降雪量が少なかったことが主な要因と考えられ、乗合タクシー・和泉3線の利用は増加（564人の増）していることから、市街地以外の地域においては、高齢者や学生などの移動制約者の日常生活の移動手段を維持することができた。 ・JR越美北線について、前年の大雪の影響はあるものの大野市内の駅の乗車人数は増加しており、利用促進策効果が一定程度現れているものと考える。

改善点

・市民が地域公共交通の重要性を認識し、乗って残す意識の醸成のため、今後も公共交通の周知を行う。
・今年度においても越美北線の利用促進として、車両ラッピングを行い、また観光振興の一環として車内広告にてイベントのPRを行う。
・最寄駅が分からない、時刻表の見方が分からない等の声があったことから、H29から利用者本人が利用する停留所及びﾀﾞｲﾔのみを記載した「ﾏｲ時刻表」作成のｻｰﾋﾞｽを開始しており、ﾏｲ時刻表作成のPRを進めていく。
・利用しやすい環境整備として、停留所の増設等について継続して検討する。